

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和7年第31週（令和7年7月28日～令和7年8月3日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- ・梅毒の報告が11件ありました。梅毒は、主に性的な接触で感染し、感染部位にしこりが出来る等、感染後の経過期間によって様々な症状が現れます。時に無症状になりながら進行するため、知らずに誰かにうつすおそれがあります。感染リスクを減らすために、避妊具（コンドーム）を正しく使用しましょう。梅毒は、早期に抗菌薬で治療すれば完治が可能です。検査や治療が遅れると、脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。また、妊婦が感染していると、死産や出生児の神経等に先天性な異常をきたすことがあります（先天梅毒）。県内の保健所等では、無料・匿名での検査を実施しています。詳細は、保健所等へお問い合わせください。
- ・百日咳の報告が多い状況が続いています。本疾患は、風邪様症状の後に、徐々に咳が強くなります。1歳以下の乳児、特に生後6ヶ月以下では重症化しやすく、亡くなる場合があります。飛まつや接触により感染するため、手洗いや咳エチケットを励行しましょう。百日咳の予防にはDPT-IPV-Hib五種混合ワクチンが有効で、生後2ヶ月から定期接種が可能です。詳しくは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	17	436	183	7,888
腸管出血性大腸菌感染症	11	121	152	1,500
レジオネラ症	2	40	32	1,268
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3	53	13	762
後天性免疫不全症候群	1	26	11	481
梅毒	11	450	147	7,993
百日咳	106	2,322	3,399	56,664

■ 定点把握疾患報告数

：警報レベル（※）

：注意報レベル（※）

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	894	7.33	1.38	15,924	4.12
インフルエンザ	46	0.38	0.57	1,223	0.32
急性呼吸器感染症	5,954	48.80	1.10	185,656	48.20
RSウイルス感染症	123	1.76	1.50	1,239	0.53
咽頭結膜熱	42	0.60	1.02	1,061	0.45
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	170	2.43	1.14	3,775	1.60
感染性胃腸炎	415	5.93	1.21	9,880	4.19
水痘	26	0.37	1.08	799	0.34
手足口病	28	0.40	1.47	1,380	0.59
伝染性紅斑（警報レベル）	241	3.44	1.19	4,423	1.88
突発性発しん	34	0.49	1.10	785	0.33
ヘルパンギーナ	51	0.73	0.65	3,852	1.63
流行性耳下腺炎	4	0.06	2.00	125	0.05
急性出血性結膜炎	1	0.04	—	10	0.01
流行性角結膜炎	14	0.54	1.17	580	0.83
細菌性髄膜炎	0	0.00	—	4	0.01
無菌性髄膜炎	1	0.07	0.50	32	0.07
マイコプラズマ肺炎	12	0.80	1.00	401	0.83
クラミジア肺炎	0	0.00	—	4	0.01
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0.00	0.00	9	0.02

（※）令和7年第15週からの定点医療機関の減少等に伴い、従前の警報及び注意報の基準値を直ちに当てはめることはできません。そのため、国が警報及び注意報の取扱いを検討することとしています。取扱いが示されるまでの間、本県では従前の基準値で運用することとします。